

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. 122

エントリー学校名：京都府立南山城支援学校

活動名：分散型全校研究の実施

新型コロナウイルス感染症への対応

解決すべき課題：学校全体の授業力を高めるために、授業研究は必須の活動であると考えている。今年度は新学習指導要領に対応して「主体的・対話的で深い学びを追求する授業改善」をテーマに研究を行っている。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行への対応のため、今年度は従来行ってきた全校教員が集合しての研修・演習の実施や、大規模な研究授業の実施が難しかった。そこで、分散して実施する演習や授業研究を計画し、全校研究を行った。特に本校は 200 名を超える教職員が在籍し、48 の学級があるため、全校で同じ内容の授業研究を分散して実施するためには様々な工夫を行う必要があった。

目標・方針：分散型の全校研究を実施するにあたって、次のような課題が挙がるのではないかと考えた。①従来の全校研究の実施方法と異なるため、研究チームの誰が何をするのかについて混乱が発生するのではないか。②分散型での実施では、全ての学級で同質の演習や授業研究を行うことは難しいのではないかと。③集合して研修を行わないことで、教員一人一人が自分事として研究を捉えられないのではないかと。これらの予想される課題に対応するために、次のことを方針として、研究を企画することとした。①研究の実施手順を正確に全校に伝えられるように、研究チームの役割を明確にしたり、伝達ルートを確認にしたりする。②全員が研究に参加している実感をもてるような研究とする。③質の高い授業研究を目指す。これらの方針に基づいて、4 STEP の研究を企画し実施した(図1)。

活動内容：

- 1 単元全体を見通すことができる単元計画や指導案の様式を検討する (step1)。
- 2 主体的・対話的で深い学びとは具体的にどのような学び方なのかを考える演習を実施する (step2)。
- 3 演習で出た意見を集約して、授業改善シートを作成し、全校で授業研究を行う (step3)。
- 4 授業研究の結果を集約し、授業改善例を全校で共有する (step4)。

活動の成果：

- ・研究の組織図(図2)を明確にすることで、全校で混乱無く、スムーズに研究が実施できている。
- ・主体的・対話的で深い学びとは具体的にどのような学び方なのかを考える演習では、各グループで活発な意見交流を行うことができ、たくさんの意見が挙がった。少人数でグループを構成することにより、全ての教員が意見を出しやすくなった。
- ・分散型で演習を行うことにより、各グループの都合のよい時間に実施でき、働き方改革につながった。
- ・研究授業については、10月、11月、12月に実施予定である。その実施の方法については全校に説明済みであり、実施体制も整っている。

アピールポイント(アイデアや工夫)

- ・研究チーム全員が見通しをもって活動できるように、組織図やロードマップを作成した。
- ・全校の教員が同じ内容の演習ができるように、詳細に演習実施手順表を作成し、分散して演習を行った。
- ・全校の演習結果を集約し、全校の教員の意見を集約した授業改善シートを作成した(図3)。
- ・全校の教員が同じ内容で授業研究ができるように、詳細な授業研究実施手順表を作成した(図4)。

図1 研究概略図

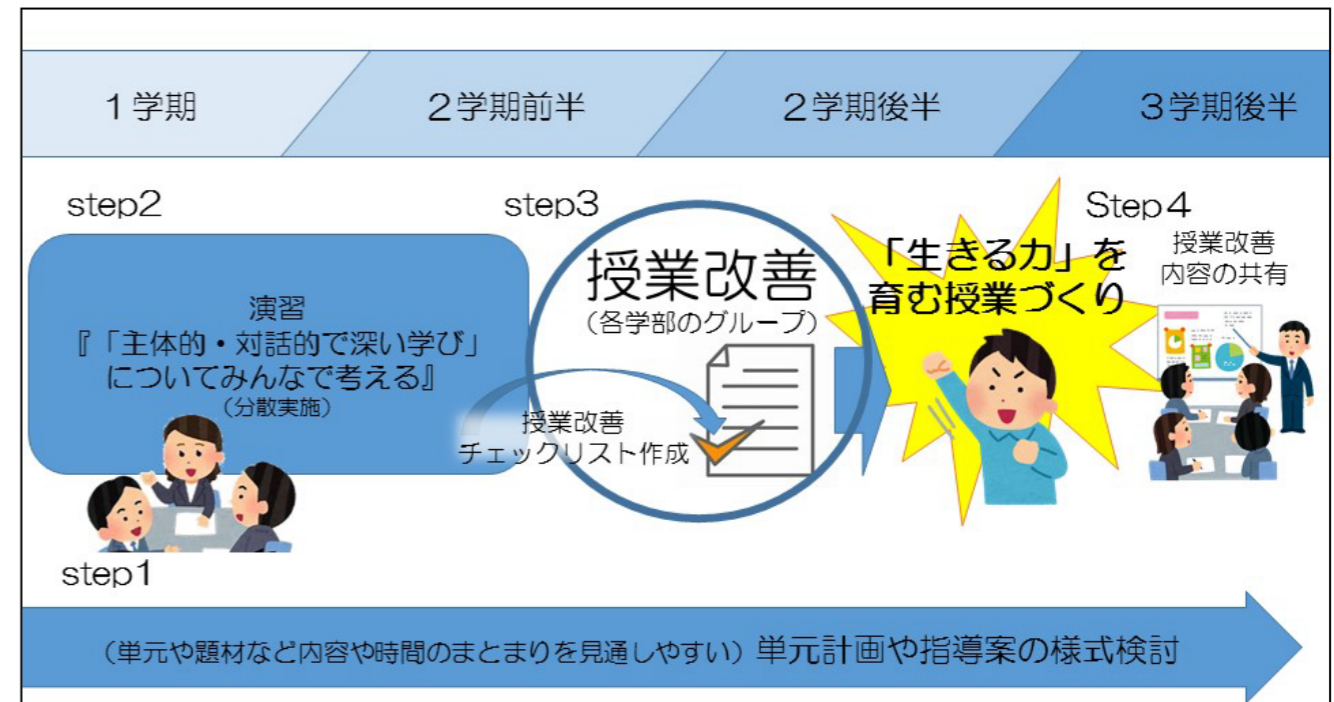


図2 研究組織図

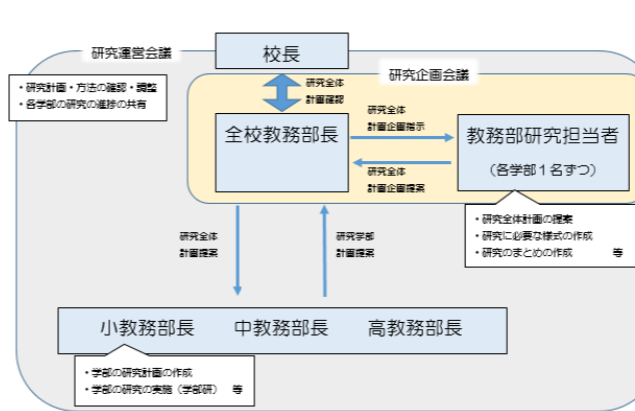


図3 作成した授業改善シート(一部)

研究課題	課題を解決するために必要なこと	自分の活動や授業の改善点	自分の活動や授業の改善点	自分の活動や授業の改善点	自分の活動や授業の改善点
授業の質を高めるために、主体的・対話的で深い学びを追求する。	主体的・対話的で深い学びを追求するために、授業の質を高めるために、主体的・対話的で深い学びを追求する。	主体的・対話的で深い学びを追求するために、授業の質を高めるために、主体的・対話的で深い学びを追求する。	主体的・対話的で深い学びを追求するために、授業の質を高めるために、主体的・対話的で深い学びを追求する。	主体的・対話的で深い学びを追求するために、授業の質を高めるために、主体的・対話的で深い学びを追求する。	主体的・対話的で深い学びを追求するために、授業の質を高めるために、主体的・対話的で深い学びを追求する。

図4 授業研究実施手順表

事前準備	事前研(グループごと)	事後研(グループごと)
<ol style="list-style-type: none"> 1 研究授業はグループ単位で行います。研究授業を行う、教科、時間、授業者等を決めてください。決定後、教科、授業、時間、授業者等各学部の教務部長に報告してください。 2 授業者は授業改善の視点を、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の中から1つ選んでください。 3 授業者は、どのような児童生徒の姿を目指したいのか、授業改善シートの右の欄から1つ〜2つ選んでください。 4 学部研の司会を1名決めてください。また学部研の準備物を用意してください。 準備物：該当の授業改善シート(人数分) 付箋 ワークシート	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業者は授業研究を行う授業がどのような授業なのか説明してください。そして、この授業でどのような児童生徒の姿を目指したいのかを説明してください。 2 司会はその姿を目指すための具体的な授業の工夫の例(改善シートの右欄)を読んでください。 3 司会「その他にもこの授業でできる授業の工夫を今から考えて、それぞれが付箋に書いていってください。授業の工夫については、授業者が選んだ目指したい児童生徒の姿につながる工夫を書きつけてください。これから5分間時間を取るため、できるだけたくさん思いをつく工夫を書いていってください。一つの付箋に一つの工夫を書くようにしてください。」 4 一度全員の手をとめさせてください。司会が自分の書いた付箋の一つを読み上げながらシートの左側の四角に貼ってください。似た意見がある人がいれば、その人は付箋の内容を読み上げながら、前の人の付箋の上に貼ってください。似た意見が全て挙がったら、一旦手を止めてください。 5 次に違う意見がある人が付箋を読み上げながら、先ほどの付箋の横に付箋を貼ってください。それに似た意見がある人は読み上げながら、その付箋の上に付箋を貼ってください。 6 全員の付箋がなくなるまで、4〜5を繰り返してください。 7 司会「たくさんの工夫が挙がりました。これらの工夫を全て授業に取り込むことは難しいので、授業者はこの後、この中から効果が高いと自分が感じたものを選んで、2〜3個授業に取り込んでみてください。よろしくをお願いします。また、これはグループとしての授業研究ですので、授業改善に必要な教材作りなどはグループ全体でしたいと思います。今日の演習はこれで終わります。」 	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業者は挙がったアイデアの中からいくつか選んで、授業の中に取り込んでください。アイデアを取り込んだ指導案を作成してください(指導案は後日回収します)。授業改善に必要な教材作り等はグループ長と相談しながら、グループ全体で作れるようにしてください。 2 改善した指導案をもとに、授業を実施してください。